

授業科目名： 音楽科指導法Ⅱ（初等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥原光 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>小学校は在籍年齢幅が広く、教師には各学年（各年齢）の精神的・肉体的特性を知るとともに、児童個々の特徴も把握することが求められる。「学習指導要領」で示されている目標・内容・評価について理解し、模擬授業などを通して基本的な音楽科指導を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>音楽は、自ら音を発して表現する「歌唱・器楽」と音楽を聴き感じる「鑑賞」とによって成立している。また、音楽教育が現在に至るまでの歴史や理論を知ることが重要である。指導案の作成や授業空間を予測して、音楽科の授業の考え方や実践方法を研究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：音楽教育の概念</p> <p>第2回：「歌唱」の指導とは何か</p> <p>第3回：自己表現としての歌唱（歌唱指導の方法～発声のしくみ～）</p> <p>第4回：他人とのかかわりの中での歌唱</p> <p>第5回：学校行事としての「斉唱」、「合唱」</p> <p>第6回：西洋の音楽教育の歴史・概説、教材研究、歌唱教材（第5学年&第6学年）、歌唱指導の注意点（変声期を中心に）</p> <p>第7回：情報機器を活用し、中世までの音楽教育の歴史、教材研究、歌唱教材（第1学年&第2学年）の教材研究</p> <p>第8回：中世以後の音楽教育（ペスタロッチ・ヘルバルトを中心に）、教材研究、歌唱教材（第3学年&第4学年）</p> <p>第9回：「器楽」の指導とは何か</p> <p>第10回：音楽教育の種類、構造、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー（発音方法、楽器の構造、楽器の歴史）</p> <p>第11回：音楽教育の基礎（哲学的・美学的・心理学的・社会学的見地からの考察）</p> <p>第12回：鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダーの指導方法、（基本的奏法の習得）。</p> <p>第13回：音楽教育の価値と機能、音楽教育の目的・目標、指導計画案の作成</p> <p>第14回：日本での音楽教育の歴史（洋楽導入期）、音楽取調掛の設立（伊沢修二と神津専三郎を中心に）</p> <p>第15回：「鑑賞」と聴体験の構造について指導案を作成し、授業を想定して検証、評価を行う。</p>			
テキスト 小学校学習指導要領 音楽篇（文部科学省）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 リポート課題2設題及び最終課題（指導案）			

